

## 道徳教育研究会で学びました!

第56回道徳教育研究会は「道徳教育の新たな充実をめざして」をテーマに岐阜県下4会場で開かれました。もとす教育者道徳研究会は、ぎふメディアコスモスの岐阜会場へ参加しました。7月31日(月)は参加者数83名でしたが、うち24名(29%)を占めました。瑞穂市18名(本田小)、本巣市3名(弾正小・糸貫中)、北方町3名参加。教師自らの品性向上を願い、熱心に聴講していただきました。参加費を岐阜もとすモラロジー事務所より出していただきました。心から感謝申し上げます。

開会式は、長沼有希子先生(市橋小)の進行で、国歌斉唱の後に、公益財団法人モラロジー研究所東海ブロック部長・都竹高一氏による主催者挨拶がありました。全国各地82会場で開催されていることの紹介と参加者への期待やお礼を述べられました。

また、開催地を代表して岐阜市教育長・早川三根夫様よりご挨拶いただく予定でしたが、都合により取りやめとなったことは残念なことでありました。終了時刻16時ということで、いつもより時間的に濃密な会の運営となりました。



主催者挨拶  
都竹高一部長



司会(市橋小)  
長沼有希子教諭



熱心に聴き入る  
参加者の皆様

### 令和元年度 研修内容

第1講「育ち合い 高め合いで 育んでいくもの」

モラロジー研究所

生涯学習講師 宮田 敏子先生

「子どもたちの幸せのために献身的な努力を日々されている先生方に敬意を表します」と切り出された宮田先生は、ご自身が最高道徳の実践を求め続ける生涯学習講師であります。



### 普通道徳と最高道徳の特徴

廣池千九郎博士が提唱した「道徳科学」の中身を知ってもらうために比較する画像が示されました。「万物を生成化育する慈悲の心」を本質に「自己と相手と第三者(社会)の三方善」と「形式に加えて心遣いを重視」するモラロジー理論が語られました。最高道徳が安心と喜びを必ず得られるものであることを知る機会となりました。

### 自らの行いに継続していること

旦那様は、第3回総会で講演していただいた宮田正義氏です。その講演を思い出させる「MCのお話」をしていただきました。高校生に真心でぶつかって彼等の生き方に影響を与えた実践が遺影と共に紹介されました。毎朝家族とハイタッチして喜びを伝え合う儀式も切っ掛けは正義氏の一言からだったそうです。そしてご自身が取り組まれている実践。子ども食堂のボランティア活動などを通して、感謝の心を大切にした子どもたちとの交流により充実感を味わっていることを話されました。「道徳で人と社会を幸せにする」というモラロジー研究所のスローガンを、正に実生活で実践されているのが宮田先生なのだと感じさせていただくお話でありました。



副担任 宮田正義先生

## 第2講「道徳科の特質を生かし、多様な読み物教材に応じた指導過程の工夫」

岐阜聖徳学園大学非常勤講師

河合 宣昌先生

河合先生は、岐阜聖徳学園大学の学生に教える一方で、現職の先生方にも指導されるお忙しい日々と聞いております。昨年に引き続きの講義となりました。



### 道徳性（＝内面的資質）を育てる「道徳科」に

道徳科に取り組む先生方に分かって欲しいのは、道徳の時間は行為を育てるのではなく心を育てるものなので、即効性を求めず積み重ねを大切にすることです。道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲、道徳的態度の4つの道徳性を育てるのが読み物教材です。

「日常生活や今後出合うであろう様々な場面、状況」を経験することで教材から離れるのです。そこで、多様な読み物教材に応じた指導過程について考えていきたいと思っております。

### 「考え、議論する」というキーワード

子どもたちが「主体的に」「自分とのかかわりで」考えることです。授業では多様な考え方、感じ方と出会い、交流して「対話的な学び」をします。そこで自分の考え方、感じ方がより明確になり「深い学び」となります。その上で、価値理解（価値の意義とよさの理解）、人間理解（人間の弱さの理解）、他者理解（多様な考え方や感じ方の理解）、自己理解（自己を見つめる）と読み物教材の分析をしてみました。

人間理解があり価値理解のある教材は基本型でAタイプとします。

『まどガラスと魚』（正直、誠実）を代表例として考えてみます。感想を生かして、すばらしい（＝価値理解）・残念（＝人間理解）を出し、迷いや弱さに関わる基本発問で話し合います。高め



られた価値観から自己を見つめる（＝自己理解）こととなります。最後に教師の話で実践意欲を高めます。『ぼくの草取り体験』（勤労、公共の精神）もAタイプです。

### 多様な読み物教材に応じた指導過程の工夫

人間理解の出てこないタイプもあります。『鑑真和上』（希望と勇氣、努力と強い意志）を例に挙げます。一番すばらしいと思うことを自分との関わりで考え、交流する（＝価値理解、他者理解）。価値を支えるキーワードを交流して（＝価値理解）高められた価値観のキーワードで自己を見つめます（＝自己理解）。Bタイプです。分析ではB1とし、B2・B3に分けることができます。

価値理解のないタイプもあります。『通学路』（規則の尊重）を例に挙げます。問題点（＝人間理解）について考え交流する。問題を解決するためにどうすればよかったかを考え交流する（＝価値理解他者理解）。高められたキーワードから自己を見つめる（＝自己理解）のです。Cタイプも3通り考えられます。

さらに、体験的なDタイプやE・Fタイプも考えられます。

河合先生は、役割演技や評価の文例など、関心の高い話題に次々にふれてくださいました。



最後に書籍ご紹介。河合宣昌著『知りたいことがきっとわかる！道徳教育Q&A』日本文教出版（1,500円＋税）



閉会挨拶 子安一徳会長

閉会式は、岐阜県教育者道徳研究会・子安一徳会長より、研究会の総括をいただきました。お二人の講義内容に触れながら、丁寧なお礼を述べられました。また、主体的に学ぼうと参加した先生方の意欲こそ「自らの品性を高め、子どもたちを幸せにするもの」と価値付けてくださいました。 【文責・森山】